慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小池基之名誉教授著作目録
Sub Title	A bibliography of the writings of Prof. Motoyuki Koike
Author	高山, 隆三
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1974
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.67, No.6 (1974. 6) ,p.584(238)- 590(244)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小池基之教授退任記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19740601-0238

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」67巻6号（1974年6月）

小池基之名誉教授著作目録

昭和6年	
フリードリッヒ・フォン・ウィーザアの帰算理論	三田学会雑誌25巻12号（12月）
昭和7年	
帰算理論と分配論	三田学会雑誌26巻6号（6月）
〔書評〕 Theo. Surányi-Unger; Geschichte der Wirtschaftsphilosophie 1931	三田学会雑誌26巻9号（9月）
カアル・メンガアと価値心理学	三田学会雑誌26巻10号（10月）
昭和8年	
我国農業における封建的性質について	三田学会雑誌27巻3号（3月）
日本農業問題　生糸問題	世界経済問題講座第5部日本経済と世界経済　春秋社（3月）
地租改正前後の農民運動	三田学会雑誌27巻11月号（11月）
昭和9年	
我国農業に於ける外的自然的条件	三田学会雑誌28巻9号（9月）
昭和10年	
〔書評〕 協同組合に関する二書——近藤康男著「協同組合原論」並びに高橋亀吉著「日本農業統制と産業革命」	三田学会雑誌29巻3号（3月）
〔書評〕 鈴木小兵衛著「満州の農業機構」	三田学会雑誌29巻5号（5月）
東北農村に於ける自然経済の崩壊	三田学会雑誌29巻8号（8月）
昭和11年	
農産物価格についての近著	三田学会雑誌30巻5号（5月）
農業生産の特殊性についての一考察	三田学会雑誌30巻8号（8月）
〔書評〕 中沢辨次郎著「輪中聚落地誌」	三田学会雑誌30巻10号（10月）
昭和12年	
明治初期に於ける農業技術の発達	明治初期経済史研究第1部慶應義塾経済史学会紀要第1冊所収（4月）
名子解放の一例	歴史と生活第1号（10月）
東北農村に於ける年雇の労働状態	三田学会雑誌31巻11号（11月）
昭和13年	
「火ぞろぎの法」其の他	歴史と生活第2号（1月）
名子賦役と刈分小作——小本川流域地方の名子制度(一)——	三田学会雑誌32巻2号（2月）
名子制度と家畜小作——小本川流域地方の名子制度(二)——	三田学会雑誌32巻3号（3月）
昭和15年	
食糧問題の重点	財政経済時報27巻1号（1月）
農業経営規模について	三田学会雑誌34巻10号（10月）
昭和16年	
農業史（明治前期）	社会経済史学10巻9・10号（1月）

〔書評〕 鈴木栄太郎著「日本農村社会学原理」	三田学会雑誌35巻2号（2月）
宮城県に於ける「ほまち田」慣行について(1)	歴史と生活4の2（3月）
社会科学新辞典（三木清・永田清・中山伊知郎）「土地」	河出書房（4月）
稲作に於ける「水」と「技術」	帝国農会報31巻6号（6月）
昭和17年	
水田	日本評論社（2月）〔第二版「日本農業と水田」昭和21年12月〕
〔書評〕 岡田温著「農業経営の再検討」	三田学会雑誌36巻11号（11月）
農業生産の気候的限界——吉岡氏の批判に対する若干の答え——	帝国農会報32巻12号（12月）
昭和18年	
宮城県に於ける「ほまち田」慣行について(2)	歴史と生活6の1（1月）
農業労働に於ける協同組織——とくに「ゆひ」及び「むら仕事」について——	三田学会雑誌37巻2号（2月）
水田経営における共同作業	日本有畜機械農業協会（4月）
宮城県に於ける「ほまち田」慣行について（3完）	歴史と生活6の3・4合併号（7月）
帝国農業論——昭和16年度「農作業慣行調査」	三田学会雑誌37巻8号（8月）
農業経営に於ける家族労働と雇傭労働	三田学会雑誌37巻10号（10月）
昭和19年	
農業経営適正規模についての若干の考察	三田学会雑誌38巻3・4合併号（4月）
日本農業構造論	時潮社（4月）〔改訂第二版　昭和23年11月〕
昭和21年	
過剰人口解決の方向	経済評論1巻1号（4月）
日本農業革命の理論	経済評論1巻4号（7月）
日本農業の再建	信濃毎日新聞（8月17・18日）
「水田」と封建制	世界評論1巻7号（9月）
日本農業再建の論理	世界経済1巻10号（10月）
土地改革批判の展望	経済評論1巻9号（12月）
昭和22年	
農村経済はどうなるか	農業朝日2巻2号（2月）
日本農業の「兼業性」	一橋新聞（3月15日）
協同組合主義の幻想	労働問題研究6号（3月）
日本農業における階級的構成	潮流2巻4号（4・5月）
農業民主化への道	理論春季号　理論社（5月）
日本農業の技術革命	地上1巻2号（6月）
戦後における農業理論の展開	三田学会雑誌40巻6号（6月）
農業に於ける資本主義	三田学会雑誌40巻7・8・9合併号（9月）
農業所得の生産化	若い農業2巻6号
過渡的地代範疇について	経済評論2巻12号（12月）
昭和23年	
日本農業近代化のために	エコノミスト26巻2号

「三田学会雑誌」67巻6号（1974年6月）

水田の技術
日本農業の兼業性

日本農業の近代化のために
農業恐慌・農村恐慌・農業危機
地代論争の前進の為に——差額地代に関する山田・櫛田氏所論を中心として——
農産物価格の形成
インフレーションと農業恐慌
昭和24年
農地改革と農業の近代化
「火山灰地」随想

近代的土地所有生成の分析視点について（匿名）
農業近代化の理論
農業恐慌論をめぐって
昭和25年
農業金融の諸問題
〔座談会〕 明治維新の主体性（安藤良雄・樽西光速・遠藤湘吉・田代正夫・中川敬一郎）
日本農村・復興か転落か
農業政策

今後の農地問題

〔書評〕 藤田五郎「近世農政史論」
昭和26年
農業経済を学ぶ為に
経済学小辞典（「農家経済」「米・稲作」「兼業農家」「小作料」「小作制度」）
土地所有と封建遺制——総括と問題

新劇への評価と期待——観客としての発言——

昭和27年
〔書評〕 小倉武一「土地立法の史的考察」
農業経済論(一)，(二)
農地改革と村の構造
地主層の構成
農地改革と社会的緊張
地主制の諸問題

農業技術3巻1号（1月）
新日本資本主義論争II農業理論所収
大学新聞連盟編　日出出版部刊
同上
思想10月号（No. 292）
社会科学19号彰考書院（11月）

経済学研究1巻2号　紀元社（12月）
三色旗1巻12号（12月）

農政評論3巻2号（2月）
劇1号（3月）〔「火山灰地」批評スクラップに再録　昭和36年9月〕
経済評論4巻2号（2月）
岩崎書店（6月）
経済評論4巻12号（12月）

農業金融3巻1号
経済学研究会編集「経済学」鎌倉文庫（1月）
中央公論65巻3号（3月）
東京商科大学　一橋新聞編「経済学研究の栞」経済政策編所収
山梨時事新聞（9月6日），岐阜タイムス（9月16日）
史学雑誌59編9号（9月）

経済評論6巻4号（4月）
大阪市立大学経済研究所編　岩波書店（6月）
日本人文学会編「封建遺制」所収　有斐閣（11月）
青年学生新書II「美しい生活の為に—新しい芸術鑑賞—」所収　理論社

三田学会雑誌45巻1号（1月）
慶應義塾大学通信教育部（1月）
農林統計調査2巻1号（1月）
三田学会雑誌45巻8号（8月）
社会科学7巻8号
日本農業の全貌研究資料7輯　総合農業調査会（12月）
山本登・吉田啓一編（改訂版昭和31年）泉文堂

全購連通信（1月）
日本評論社「経済学の研究入門」（3月）
日本人文科学会編「社会的緊張の研究」有斐閣（4月）

日本経済政策学会編「産業構造と経済政策」如水書房（3月）
慶應義塾大学通信教育部編「慶応通信」80号（11月）

三田評論564号
健康保険9巻4号（4月）
機械化農業6月号（6月）
三田学会雑誌48巻7号（7月）
三色旗89号（8月）
図書新聞（8月27日）
三田新聞761号（9月30日）
経済評論4巻9号（9月）
アダム・スミスの会編　弘文堂（12月）

山田盛太郎編「変革期における地代範疇」所収　岩波書店（9月）

有斐閣（7月）
村落社会研究会編「農村過剰人口の存在形態」所収（10月）
信濃毎日新聞（3月9日）

日本読書新聞（5月6日）
信濃毎日新聞（6月8日）
東京大学新聞（11月27日）

三色旗119号（2月）
日本商業学会編「マーケティングシンポジウム・日本のマーケティング」所収　同文館（2月）

入門経済学辞典（農業経済の項目）

昭和28年
農業問題の焦点
農業経済学——その基礎をまなぶために——

地域社会内部に於ける緊張関係

昭和29年
「改革」後における地主制の存在形態

墓標（外遊日記から）

昭和30年
アダム・スミスの生地を訪ねて
パリからの手紙
帰ってきての記
地主制再編の一形態——とくに農地移動について——
パリの図書館——日記抄——
〔書評〕 福島大学経済学会編「寄生地主制の研究」
〔書評〕 林基「百姓一揆の伝統」
「経済学教科書」における経済外的強制その他について
〔文献解題〕 田中定「アダム・スミスの土地所有形態論」
昭和31年
農地改革と土地所有の性格

昭和32年
地主制の研究
農村過剰人口の存在形態

〔書評〕 潮見俊隆・渡辺洋三・石村善助・大島太郎・中尾英俊共著「日本の農村」
〔書評〕 石波貞雄「農業理論入門」
〔書評〕 東畑精一・磯辺秀俊「農業生産の展開構造」
〔書評〕 大内力編「農業」（現代日本資本主義大系　第3巻）
昭和33年
マルクスの墓
農産物の市場構造——千葉県安房郡旧Y村H北部落の調査事例について——

農業集落の性格規定について　三田学会雑誌51巻7号（7月）
戦後農民層分解の形態と性格　土地制度史学創刊号（10月）
〔書評〕大内力「地代と土地所有」　図書新聞（11月29日）

昭和34年
フィレンツェと京都　京都慶應倶楽部春季号
京都の祭　ずいひつ新聞（5月15日）
世界大百科辞典（「減免慣行」その他）　平凡社

昭和35年
農業近代化の方向はどうあるべきか　日本農業新聞（2月1日）
〔書評〕星埜淳「日本農業発展の論理」　読書人（6月20日）
〔書評〕大内力「農業史」（日本現代史大系1）　図書新聞（11月26日）
パリの古文書館　学燈 57巻11号（11月）

昭和36年
資本主義における土地所有の一般的性質　三田学会雑誌54巻2号（2月）
いわゆる「高度成長」と農業構造　村落社会研究会編「農政の方向と村落社会」所収　時潮社（11月）
経済学の学習にあたって　慶應義塾大学理財学会会誌（11月）

昭和37年
最近の日本経済と農業（中津市福沢記念祭講演）　三田評論 606号（7月）

昭和38年
戦後日本経済史——農業——　経済セミナー79号（2月）
卒業生諸君に贈る言葉　百四年三田会（3月）
General Nature of Landed Property in Capitalism　Keio Economic Studies Vol. 1.
新入生父兄にこうアドバイスする　塾創刊号（4月）
福沢基金の設立をよろこぶ（福沢諭吉学事振興基金）——設立の趣意と事業報告——　慶應義塾（7月）
琴平　三色旗 185号（8月）

昭和39年
欧米の大学と日本の「大学」　経済評論13巻5号（5月）
いわゆる経済の「高度成長」と農産物価格　食糧管理月報（8月）
欧米大学制度管見　三田評論 630号（9月）
海外大学教育総合調査団報告書　民主教育協会（11月）

昭和40年
〔書評〕馬場昭「水利事業の展開と地主制」　エコノミスト43巻20号（5月11日）
米価・米作労働・米作地代　経済評論14巻7号（7月）
〔対談〕（東畑四郎）「米価をどう考える」　エコノミスト43巻31号（7月20日）
日本資本主義の再生産構造と農業問題　思想 497号（11月）

昭和41年
農業問題の問題点　三色旗 215号（2月）
今週の問題（匿名）・教育——後期中等教育のあり方，米価——ビジョンのない米価政策　東洋経済3284号（5月21日）

トロントにて（茶の間欄）　毎日新聞（5月25日）
私のふるさと　慶応通信 219号（6月）
大学の本質　塾4巻4号（9月）
「背振山考」に寄せて　劇団東演13回公演パンフレット（11月）

昭和42年
三田学会雑誌小史　慶應義塾大学報2巻1号（4月）
今週の問題：米価問題・労務者不足　東洋経済3342号（5月13日）
日本農業「近代化」に関する若干の考察　岡田与好・馬場昭・斎藤晴造・東敏雄・菅野俊作「資本主義の農業問題」（木下教授退官記念論文集）所収　日本評論社（8月）
「資本論」における土地所有の論理——研究序説——　三田学会雑誌60巻9号（9月）
経済学における村落研究の動向　村落社会研究3集所収　村落社会研究会編（10月）
米価にみる日本農業の矛盾　時事教養（11月）
米価問題の周辺　三色旗 237号（12月）
日本経済の「近代化」をめぐる諸問題　慶應義塾経済学会編「日本経済の近代化」所収　東洋経済新報社（12月）

昭和43年
「若き血」の誕生——明治・大正・昭和三代の塾生生活より——　慶應義塾大学報2巻6号（2月）
休講をめぐって　慶應義塾大学報3巻2号（6月）
三田学会雑誌小史　三田評論 672号（6月）
〔書評〕井野隆一・暉峻衆三・重富健一「戦後日本の農業と農民」　農林図書資料月報（8月）

昭和44年
〔鼎談〕日本の農村　三田評論 680号（3月）
大学はかくありたい　慶應義塾大学（別刷塾生案内）（4月）
「名子の賦役」雑感　「有賀喜左衛門著作集」月報8（8月）
大学立法管見　三田評論 685号（8月）
農業経済論研究への手引き1・2・3　三色旗255～257号（6～8月）
〔書評〕大内力「日本に於ける農民層の分解」　日本読書新聞（10月）

昭和45年
業績審査と任期制——大学改革の視点——　塾8巻1号（2月）
アダム・スミスの手紙　日本経済新聞（2月10日）
私学助成と UGC　三田評論 692号（4月）
1769年の Adam Smith—Adam Smith の Sir David Dalymple, Lord Hailes 宛未刊の手紙について——　三田学会雑誌63巻5号（5月）
自作農創設維持（監修）　農地制度資料集成6巻　御茶の水書房（6月）
私立大学と「日本私学振興財団」　塾8巻4号（8月）
スミスの手紙と「国富論」　春秋〔春秋社〕（10月）
農業経済経営事典　東畑精一監修　農政調査委員会編　日

	本評論社（9月）
体系農業百科事典6巻「農業社会経済編」執筆事項「農産物の商品化」	農政調査委員会編（11月）
昭和47年	
経済学の辞典——農業経済学の辞典——	三色旗286号（1月）
生々しい思索の苦闘——卒業論文について——	塾10巻1号（1月）
〔書評〕 高村象平「私学に生きる」を読む	三田ジャーナル（4月）
〔書評〕 三木与吉郎編「阿波藍譜・精藍事業編」	三田学会雑誌65巻5号（5月）
〔書評〕 佐原六郎編著「佃島の今昔」	三田評論717号（7月）
小泉先生と私	小泉信三全集月報25—上（9月）
地主制の原型——村松祐次著「近代江南の組織——中国地主制度の研究」をめぐって——	土地制度史学57号（10月）
昭和48年	
〔鼎談〕 中国の地主制と日本の地主制	三田評論724号（3月）
〔談〕 八角塔	慶應義塾大学報8巻1号（4月）
私の古典——アダムスミス「国富論」	三田評論727号（6月）
新入生に贈る	塾11巻3号（6月）
私の読書遍歴	三色旗305号（8月）
昭和49年	
〔書評〕 椎名重明「近代的土地所有——その歴史と理論——」	社会経済史学39巻5号（1月）
アダム・スミスにおける農業・土地問題	三田学会雑誌67巻6号（6月）

〔戦時中の調査報告や辞書・辞典の執筆項目をはじめとして，なお遺漏があることをおことわりしておく。〕

資料作製　高　山　隆　三

Agrarian Problems in A. Smith's "The Wealth of Nations"

by Motoyuki Koike

Usually we have two points on the agricultural thesis in "The Wealth of Nations" by Adam Smith. One is on the productivity of agriculture and the other on the position of agriculture in the natural course of things. However, they should be replaced by the problem of the economic theory and one of the historical analysis——the formation of the civil society.

Generally speaking, everyone has recognized the solidity of logic by Adam Smith that capital ought to be invested in the agricultural branch in spite of the low level of the productivity on account of "the natural course of things".

But when we inquire into the evolution of his theory, we can know he did not always conclude that an agriculture was an unfavorable branch in the production of the wealth of nations. The point of his argument is rather here as follows: it was to comply with "the natural course of things" for him that capital should be invested first in an agricultural branch for a formation of the civil society; but in order that improvement of farming should be promoted such a profit as 'a category of capitalist mode of production' realized also in the agricultural branch.

In his work, we can see the historical necessity of the civil society in the process of "the natural course of things" in spite of the policies against it; so we also take his agricultural problems on the improvement of farming, the diffusion, and the promotion in agrarian revolution going on at that time.

On angrarian relations Adam Smith, indeed, saw the conflict for capitalist evolution between large, capitalist management in agriculture by landlords and small-commodity producers who owned small-scale farms and so had possibility of being large, capitalist farmer through the differenciation of peasantry——like 'a yeoman being independent and in self-management'. It involved the change of landownership by the improvement of farming and the innovation in agricultural production accompanied by the differenciation of yeomanry (enlarging the scale of farming). These matters were the backgrounds of his theory on rent in "The Wealth of Nations".

Adam Smith, however, regulated the rent as the serplus over the average profit in agriculture, when he considered it as a general return originated in the landownership itself. Although his conception of the natural rent contained the difference derived from fertility of the soil or its position to a market, it was not the differencial rent in the strict sense of the word. And also "the natural rent" could not be equalized immediately with the absolute rent in spite of his suggestion as to the low level of the organic composition of capital in agriculture.